MA1710-B © 2017 CASIO COMPUTER CO., LTD.

CASIO®

5535＊JA

取扱説明書

5535

このたびは、本機をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
ご使用の前に本書の「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
本書はお読みになった後も、大切に保管してください。

この時計の特長

この時計は、次の機能を備えています。

◆ストップウオッチとして使えます

経過時間を計測できます。時刻表示からワンプッシュで計測を開始できます。また、ラップタイムを最大 120 本まで記録できます。

→ P.17

◆タイマーとして使えます

設定時間をカウントダウン計測します。残り時間が 0 になると、タイムアップ音でお知らせします。

→ P.26

◆アラームを設定できます

設定した時刻になると、アラーム音でお知らせします。

→ P.28

◆2 つの時刻を表示します

現在時刻とは別に、海外時刻などもう 1 つの時刻を表示できます。

→ P.31

安全上のご注意

絵表示について

本書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、色々な絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠ **危険**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠ **警告**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
⚠ **注意**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△ 記号は「気をつけるべきこと」（注意）を意味しています（左の例は感電注意）。

⃠ 記号は「してはいけないこと」（禁止）を意味しています（左の例は分解禁止）。

● 記号は「しなければならないこと」（強制）を意味しています（左の例は電源プラグをコンセントから抜く）。

⚠ 警告

スキューバダイビングには使用しないでください

本機をスキューバダイビングに使用しないでください。

- 本機はダイバーズウオッチではありません。誤って使用すると、事故の原因となります。

電池の取り扱いについて

本機で使用しているボタン電池を取り外した場合は、誤ってボタン電池を飲むことがないようにしてください。特に小さなお子様にご注意ください。

電池は小さなお子様の手の届かない所へ置いてください。万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

⚠ 注意

お手入れについて

ケース・バンドは汚れからさびが発生し、衣服の袖口を汚すことがあります。ケース・バンドは常に清潔にしてご使用ください。特に、海水に浸した後放置しておくとさび易くなります。

かぶれについて

時計の本体およびバンドは、直接肌に接触していますので、使用状態によってはかぶれを起こす恐れがあります。

① 金属・皮革に対するアレルギー
② 時計の本体およびバンドの汚れ・さび・汗等
③ 体調不良等

- バンドをきつくしめると、汗をかきやすくなり、空気の通りが悪くなりますのでかぶれ易くなります。バンドは余裕をもたせてご使用ください。
- 「抗菌防臭バンド」は汗などによる細菌の繁殖を抑え、においの発生を防ぐもので、皮膚のかぶれを防ぐものではありません。
- 万一、異常が生じた場合は、ご使用を中止し、医師にご相談ください。

⚠ 注意

分解しないでください

本機を分解しないでください。けがをしたり、本機が故障する原因となることがあります。

データ控えを作ってください

記憶させた内容は、ノートなどに書くなどして、本機とは別に、必ず控えを残してください。本機の故障、修理や電池消耗により、記憶内容が消えることがあります。

ご使用にあたって

時計表示の確認は、思わぬ転倒やけがの予防のため、十分に安全が確認された場所で行ってください。特に、道路でのマラソンやジョギング、自転車やバイク・自動車等の運転中は事故の原因になることがありますので、十分にご注意ください。また、第三者への接触による事故防止にも十分にご注意ください。

時計が止まった場合は、速やかに電池を交換してください。

⚠ 注意

ご使用にあたって

時計着脱の際に、バンドの中留で爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。特に、長く伸ばした爪では、中留の操作はおやめください。

思わぬけがやアレルギーによるかぶれを防ぐため、就寝時は時計をはずすなど十分にご注意ください。

幼児を抱いたり、接したりする場合は、幼児のけがやアレルギーによるかぶれを防ぐため、時計をはずすなど十分にご注意ください。

時計本体（裏ぶたを含む）やバンドに製品保護シールが付いている場合は、ご使用になる前に必ずはがしてください。シールをはがさずにご使用になると、「時計本体やバンド」と「シール」との隙間に汚れが付着し、さびやかぶれの原因となることがあります。

オートライト作動時のご使用について

オートライト作動状態のとき、本機を腕につけて自動車などを運転すると、不用意にライトが点灯し、運転の妨げになり危険ですのでおやめください。交通事故の原因となることがあります。

目次

この時計の特長 ..... 表紙裏面

安全上のご注意 1

本書について 8
- 本文中の記号について 8
- 操作部と表示について 8
- 液晶表示について 9

モードの種類と切り替え 10
- 各モードでできること 10
- モードの切り替え 11
- 共通機能 12

時刻を合わせる 14
- 時刻、日付の調整 14
- サマータイムを設定する 15

ストップウオッチ 17
- ラップタイムについて 18
- ストップウオッチモードを選ぶ 18
- 計測する 19
- メモリーについて 20

計測データのリコール 22
- データリコールモードを選ぶ 22
- データを確認する 22
- 計測データを消去する 24

タイマー 26
- タイマーモードを選ぶ 26
- 計測時間を設定する 26
- 計測する 27
- タイムアップ音を止める 27

アラーム・時報 28
- アラームモードを選ぶ 28
- アラーム時刻を設定する 28
- アラーム・時報のオン／オフ 29
- アラーム音を止める 30
- アラーム音を確認する（モニターアラーム） 30

デュアルタイム.....31
デュアルタイムモードを選ぶ..... 31
デュアルタイムを設定する..... 31
現在時刻とデュアルタイムを入れ替える..... 32

ライト 33
ボタンを押して点灯させる..... 33
自動的に点灯させる（オートライト）..... 33
点灯時間を切り替える..... 35

針の位置補正 36
針の位置を補正する..... 36

ボタン操作音のオン／オフ 38

故障かな？と思ったときは.....39
時刻設定..... 39

主なマークとインジケーター.....40

製品仕様.....41

ご使用上の注意.....45

お手入れについて.....49

電池交換について.....50

金属バンドの駒詰めについて 50

本書について

本文中の記号について

注意：誤った使用方法によるけがや故障を防ぐための情報を記載しています。

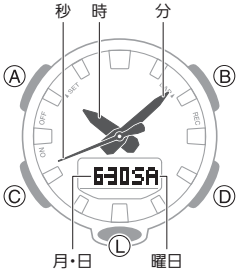
重要：正しく使用するために必要な情報を記載しています。

参考：各機能や操作の説明に関する補足情報を記載しています。

：詳細の説明や関連する項目などの参照ページを案内しています。

操作部と表示について

この時計の操作は、Ⓐ ～ Ⓓ、Ⓛ ボタンを使用します。



参考

- この取扱説明書では各ボタンの操作を説明するために、図に記載した文字を使用しています。
- この取扱説明書に記載しているイラストは、視認性を考慮して実際のものとは異なる描写をしているものがあります。ご了承ください。

液晶表示について

製品により液晶表示のタイプが異なります。

- 1 つの製品でタイプを切り替えることはできません。

白地に黒

黒地に白

本書は「白地に黒」のタイプのイラストで説明します。

モードの種類と切り替え

この時計には、機能に応じたいくつかのモードがあります。各モードの機能とモード切り替え方法は以下の通りです。
また、各モードに共通している機能や操作は、12 ページを参照してください。

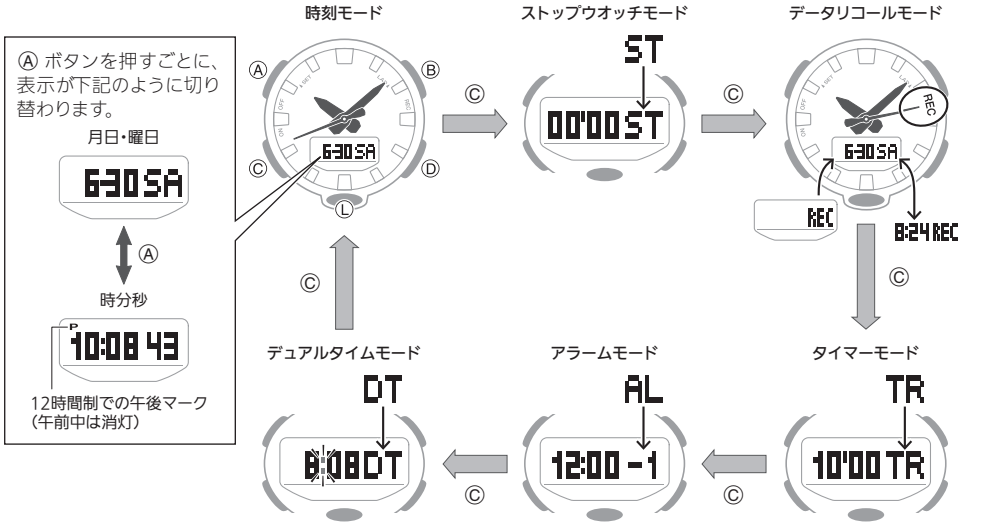
各モードでできること

モード	機能	参照ページ
時刻	• 時刻、日付の表示 • 時刻、日付、サマータイムの設定 • ストップウオッチのワンプッシュ計測スタート	P.8 P.14 P.18
ストップウオッチ	• 経過時間の計測 • ラップタイム（120 本まで）の記録	P.17
データリコール	ストップウオッチモードで記録したデータを表示	P.22
タイマー	タイマーの設定、計測	P.26

モード	機能	参照ページ
アラーム	• アラーム時刻の設定 • アラームと時報のオン／オフ設定	P.28
デュアルタイム	• 2 つ目の時刻を表示 • 2 つ目の時刻の設定	P.31

モードの切り替え

Ⓒ ボタンを押すごとに、以下のモードに切り替わります。



時刻モードから Ⓓ ボタンを押すとストップウオッチモードに切り替わります。

- モードの切り替え後については、「ストップウオッチモードを選ぶ」（18 ページ）をご覧ください。

参考

- どのモードで操作していても、Ⓒ ボタンを約 2 秒間押し続けると時刻モードに戻ります。ボタン操作音がオンに設定されているときは、このときピピッと 2 回高い音が鳴ります。
- ボタン操作音がオンに設定されているときは、Ⓒ ボタンを押すごとに音が鳴ります。時刻モードに戻るときは、高い音が鳴ります。

ボタン操作音のオン／オフ…P.38

共通機能

以下の機能と操作は各モードに共通しています。

◆自動表示切り替え

- 時刻などを設定しているとき（表示が点滅中）や針の位置補正をしているとき（36 ページ）に何も操作せず 2 ～ 3 分間経過するとセット状態が解除されます。
- 以下の状態で何も操作せず時間が経過すると、時刻モードに自動的に戻ります。

モード	経過時間
アラーム	約 3 分間
データリコール	約 3 分間

◆早送り

- 各モードで設定をするとき、Ⓓ および Ⓑ ボタンを押して設定内容を変更します。
- Ⓓ または Ⓑ ボタンを押し続けると、設定値を早送りできます。

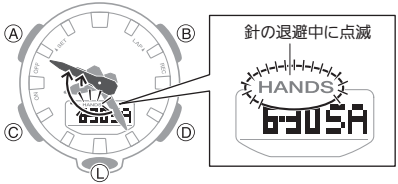
◆針を退避させて、他の表示を見やすくする

時針と分針を一時的に移動させて、画面など他の表示を見やすくすることができます。

❶ Ⓛ ボタンを押しながら、Ⓒ ボタンを押します。

- ピピッと 2 回音が鳴り、時針と分針が、画面に重ならない場所に移動します。

例）8 時 25 分から退避させた場合



❷ もう一度 Ⓛ ボタンを押しながら Ⓒ ボタンを押すと、針が通常の位置（時刻表示）に戻ります。

参考

- どのモードでも有効です。ただし各モードの設定モードでは、この機能を使わなくても時針と分針が退避し、秒針も 0 秒位置へ自動で退避します。
- 針の退避中も、退避させていないときと同じようにボタンの操作ができます。
- モードを変えると、針の退避は解除されます。

モードの切り替え…P.11

- 何も操作せず約 1 時間経つと、針の退避は解除されます。

時刻を合わせる

現在の時刻と日付を設定します。

時刻、日付の調整

デジタルの時刻を修正すると、それに応じて針の時刻も修正されます。

重要

- デジタルの時刻表示と針が示す時刻が合っていないときは、針の位置を補正する必要があります。

針の位置補正…P.36

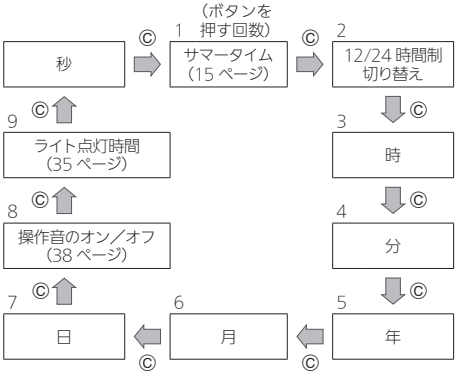
◆時刻と日付の合わせかた

1 時刻モードで Ⓐ ボタンを「秒」が点滅するまで（約 2 秒間）押し続けます。

- 「秒」を設定できる状態になります。

2 Ⓒ ボタンを押して、設定する項目を選択します。

Ⓒ ボタンを押すごとに以下の順序で設定項目が切り替わります。



❸ Ⓓ または Ⓑ ボタンを押して、以下の設定を変更します。

画面	変更項目	操作
41	秒を「00」にリセット 30 ～ 59 秒のときは 1 分繰り上がります	Ⓓ ボタンを押す
12H	12 時間制（12H）と 24 時間制（24H）の切り替え	Ⓓ ボタンを押す
P 10:08	「時」「分」の変更	Ⓓ または Ⓑ ボタンを押す
20 18	「年」の変更	Ⓓ または Ⓑ ボタンを押す
6-30	「月」「日」の変更	Ⓓ または Ⓑ ボタンを押す

❹ Ⓐ ボタンを押して、設定を終了します。

参考

- 日付の設定は、月ごとの日数の違いや、うるう年にも対応しています（フルオートカレンダー）。
- 12 時間制の場合、午後は P マークが点灯します。

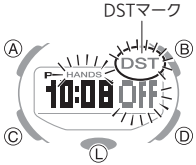
サマータイムを設定する

❶ 時刻モードで Ⓐ ボタンを「秒」が点滅するまで（約 2 秒間）押し続けます。

- 「秒」を設定できる状態になります。

❷ Ⓒ ボタンを押して、サマータイム（DST）設定画面に切り替えます。

❸ Ⓓ ボタンを押して、サマータイム（DST）の設定を選択します。



Ⓓ ボタンを押すごとに以下の設定が切り替わります。

DST OFF	通常の時刻を表示します。
DST ON	サマータイムを表示します。

❹ Ⓐ ボタンを押して設定を終了します。

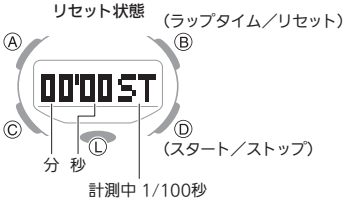
サマータイムを設定すると時刻モード画面に、[DST] を表示します。

参考

- サマータイムとは、DST (Daylight Saving Time) とも言い、通常の時刻 (スタンダードタイム) から 1 時間進める夏時間制度のことです。サマータイムの実施期間や実施地域は、国によって異なります。また、サマータイム制度を採用していない国や地域もあります。

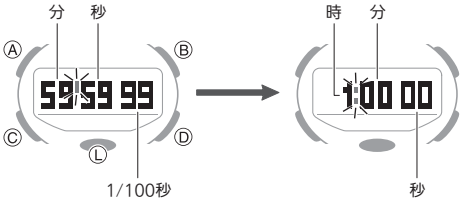
ストップウオッチ

ストップウオッチは23時間59分59秒まで計測できます。計測範囲を超えた場合は、自動的にリセット状態に戻ります。ラップタイムを計測すると、スタートした日付・時刻と計測結果を最大120本まで自動的に記録します。



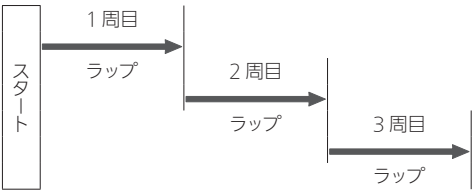
◆タイムレンジ切り替え

計測時間が1時間を超えると、計測単位が1/100秒単位から秒単位に変わります。



ラップタイムについて

ラップタイムは、任意の区間（周回競技では 1 周分）を進むのに要する時間のことです。
例）陸上、モータースポーツなど周回競技



ストップウオッチモードを選ぶ

次の方法があります。

◆時刻モードから直接切り替える

事前にストップウオッチがリセットされていれば、すぐに計測を開始できます。

計測する…P.19

❶ 時刻モードで Ⓓ ボタンを押します。

操作前の状態により、以下のようになります。

- リセット時：計測を開始します（時刻モードからのワンプッシュ計測スタート）
- 計測途中で停止中：停止したまま、計測は再開しません
- 計測が進行中※：計測を継続します

※ストップウオッチ計測中に、他のモードへ切り替えると、計測は継続しています。

❷ 以降の操作は、「計測する」（19 ページ）の手順と同じです。

◆他のモードから切り替える（時刻モードからも切り替えができます）

● Ⓒ ボタンを必要な回数押します。

モードの切り替え…P.11

- ［ST］を表示してから約 1 秒後に、ストップウオッチ表示になります。
- 時刻モードから切り替えるときは、Ⓒ ボタンを 1 回押します。
- 前回、ストップウオッチモードを抜けた（他のモードに切り替えた）ときの状態で、ストップウオッチ画面になります。

計測する

● ボタン操作は、以下の通りです。

- 経過時間計測

Ⓓ → Ⓓ → Ⓓ → Ⓓ → Ⓑ
スタート　ストップ　（再スタート）（ストップ）　リセット

- ラップタイム計測

Ⓓ → Ⓑ → Ⓑ → ・・・
スタート　ラップタイム 1　ラップタイム 2

・・・ → Ⓓ → Ⓑ
ストップ　リセット

- Ⓑ ボタンを押すたびに、計測したラップタイムを 120 本まで記録します。
- 120 本を超えると、一番古い計測結果から自動的に消去されます。
- 最後のラップタイム（ストップを押したときのラップタイム）は、リセットしたときに記録されます。

参考

- ラップタイム表示は約 8 秒後に自動的に解除されます。
- 計測中に他のモードに切り替えても、内部で計測を継続します。ただしストップウオッチモードに戻ったとき、ラップタイム表示は解除されています。

メモリーについて

メモリーは 121 本あり、スタートした日付・時刻と、ラップタイムをメモリーします。ラップタイムは最大で 120 本メモリーできます。

- 日付・時刻は、計測 1 回（スタートしてからリセットするまで）ごとに、1 本メモリーを使います。
- ラップタイムは計測ごとに、1 本メモリーを使います。

例 1）計測（スタートしてからリセットするまで）を 1 回した場合
日付・時刻＋ラップ 120 本＝ 121 本

例 2）複数の計測をした場合
（計測 1）日付・時刻＋ラップ 60 本＝ 61 本
（計測 2）日付・時刻＋ラップ 59 本＝ 60 本
合計 121 本

参考

- メモリーしたデータはデータリコールモードで呼び出します。

計測データのリコール…P.22

◆メモリータイミング

ボタンを押したときに計測したデータは次のようにメモリーされます。

操作	結果
リセット状態のときに Ⓓ ボタンを押してスタートする。	新しい記録を開始し、日付と時刻をメモリーします。
Ⓓ ボタンを押してストップする。	計測を停止します。ただしメモリーはしません。
Ⓓ ボタンを押して再スタートする。	計測を再開します。ただしメモリーはしません。
Ⓑ ボタンを押してラップタイムを計測する。	ラップタイムをメモリーします。
Ⓑ ボタンを押してリセットする。	最後のラップタイムをメモリーします。

◆メモリー容量をオーバーしたときは

メモリー容量をオーバーしたときは、古いデータを自動的に消去して、新たな計測結果をメモリーします。

例 1）計測結果が 1 つだけ（1 回で 121 本以上の計測をした）の場合

最も古いラップデータを消去します。

例 2）複数の日付・時刻の計測結果がある場合

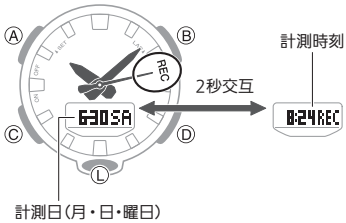
最も古い日付・時刻の計測結果をまとめて消去します。

参考

- 任意のメモリーを消去するときは、24ページをご覧ください。

計測データのリコール

メモリーしたデータはデータリコールモードで呼び出します。
データリコールモードに切り替えると、最新データの計測日（月・日・曜日）と時刻が表示されます。



データリコールモードを選ぶ

● **時刻モードで Ⓒ ボタンを 2 回押して、データリコールモードに切り替えます。**

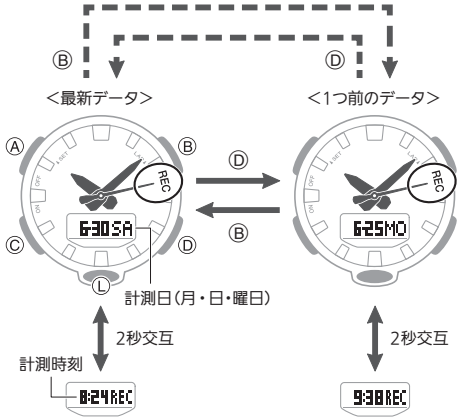
モードの切り替え…P.11

- ［REC］を表示してから約 1 秒後に、データリコールモード表示になります。

データを確認する

◆計測日時を選ぶ

データリコールモードで Ⓑ または Ⓓ ボタンを押すごとに、計測日時を表示します。

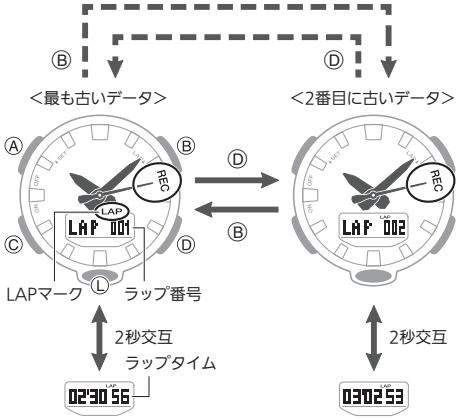


◆ラップデータを表示させる

❶ 計測日時表示で、Ⓐ ボタンを押します。
- ラップデータが表示されます。

❷ Ⓑ または Ⓓ ボタンを押すごとに、ラップ番号とラップタイムを表示します。

❸ Ⓐ ボタンを押すと、計測日時の表示に戻ります。

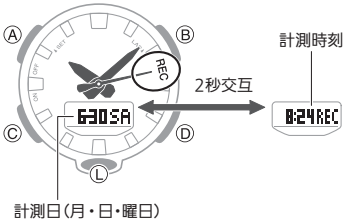


計測データを消去する

◆個別のデータを消去する

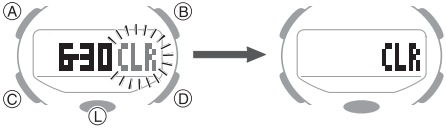
消去されるデータは計測日時単位です。計測日時内の各ラップデータだけを消去することはできません。

❶ Ⓑ または Ⓓ ボタンを押して、消去したい計測日時を表示します。



❷ Ⓐ ボタンを約 2 秒間押し続け、データを消去します。

［CLR］が点滅から点灯になります。



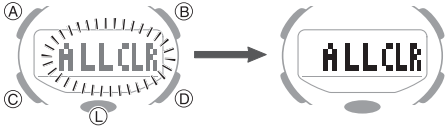
参考

- 計測中のデータは消去できません。

◆すべてのデータを消去する

● Ⓐ ボタンを約 5 秒間押し続け、データを消去します。

[CLR] が点滅から点灯になり、データが 1 件消去されます。さらに押し続けると、[ALL CLR] が約 1.5 秒間点滅し点灯になると、すべてのデータが消去されます。



参考

- 計測中は消去できません。

タイマー

タイマーは、1 秒単位で 100 分まで設定することができます。タイムアップになると 10 秒間のタイムアップ音が鳴ります。

タイマーモードを選ぶ

● 時刻モードで Ⓒ ボタンを 3 回押し、タイマーモードに切り替えます。

モードの切り替え…P.11

- ［TR］を表示してから約 1 秒後に、タイマー表示になります。

計測時間を設定する

参考

- タイマー計測中の場合は、Ⓓ ボタンを押して計測を停止してから Ⓑ ボタンを押して計測時間をリセットします。
- タイマー計測が一時停止している場合は、Ⓑ ボタンを押して計測時間をリセットします。

❶ Ⓐ ボタンをタイマーの「分」が点滅するまで（約 2 秒間）押し続けます。

- 計測時間を設定できる状態になります。

❷ Ⓒ ボタンを押すごとに、点滅箇所が切り替わります（「分」⟷「秒」）。

❸ Ⓓ または Ⓑ ボタンを押して、「分」または「秒」を設定します。

- 計測時間を 100 分に設定するときは、表示を 00'00 にします。

❹ Ⓐ ボタンを押して設定を終了します。

計測する

● タイマー計測のボタン操作は、以下の通りです。

Ⓓ → Ⓓ → Ⓓ → Ⓓ → Ⓑ
スタート　ストップ　（再スタート）（ストップ）　リセット

参考

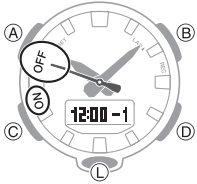
- 他のモードに切り替えていても、タイムアップ音が鳴ります。

タイムアップ音を止める

● いずれかのボタンを押すとタイムアップ音が止まります。

アラーム・時報

アラームは5つの時刻を設定できます。
設定した時刻になるとアラーム音が約 10 秒間鳴ります。
また、毎正時（00 分）に時報を鳴らすこともできます。



アラームモードを選ぶ

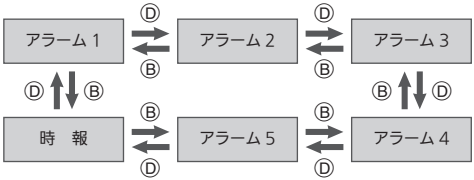
● 時刻モードで Ⓒ ボタンを 4 回押し、アラームモードに切り替えます。

モードの切り替え…P.11

- ［AL］を表示してから約 1 秒後に、アラーム表示になります。

アラーム時刻を設定する

❶ Ⓓ または Ⓑ ボタンを押して、設定するアラーム番号を選択します。



❷ Ⓐ ボタンをアラーム時刻の「時」が点滅するまで（約 2 秒間）押し続けます。

- アラーム時刻を設定できる状態になります。
- アラームマークが点灯し、アラーム設定がオンになります。

❸ Ⓒ ボタンを押すごとに、「時」または「分」の選択が切り替わります。

選択している方が点滅表示します。

アラーム時刻の「時」

❹ Ⓓ または Ⓑ ボタンを押して、「時」または「分」を設定します。

- 12 時間制の場合、午後は P マークが点灯します。

❺ Ⓐ ボタンを押して、設定を終了します。

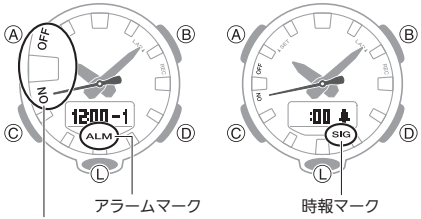
アラーム・時報のオン／オフ

❶ アラームモードで Ⓓ または Ⓑ ボタンを押して、設定するアラームまたは時報を選びます。

❷ Ⓐ ボタンを押して、アラームまたは時報のオン／オフを切り替えます。

- 秒針が ON（オン）または OFF（オフ）を指します。
- 5 つのアラームのうち 1 つ以上のアラームをオンにすると、アラームマークが点灯します。時報をオンにすると、時報マークが点灯します。

アラームオン　　時報オン



アラームマーク　　時報マーク

アラームのオン/オフ

アラーム音を止める

● いずれかのボタンを押すとアラーム音が止まります。

アラーム音を確認する（モニターアラーム）

● アラームモードで Ⓓ ボタンを押し続けると、押している間、アラーム音が鳴ります。

デュアルタイム

デュアルタイムモードとは、時刻モードの時刻とは別に、海外時刻などもう 1 つの時刻を 15 分単位でセットできる機能です。

- デュアルタイムの「秒」は時刻モードの「秒」に連動しています。

デュアルタイムモードを選ぶ

時刻モードで、Ⓒ ボタンを 5 回押すと、デュアルタイムモードに切り替わります。

モードの切り替え…P.11

- ［DT］を表示してから約 1 秒後に、デュアルタイム表示になります。

デュアルタイムを設定する

❶ デュアルタイムモードで Ⓐ ボタンを「時分」が点滅するまで（約 2 秒間）押し続けます。

❷ Ⓒ ボタンを押すごとに「時分」または「DST」の選択が切り替わります。

❸ Ⓑ または Ⓓ ボタンを押して、「時分」を設定します。

- サマータイム設定は、Ⓓ ボタンを押すごとに ON（オン）と OFF（オフ）が切り替わります。オンのときはデュアルタイムモードで DST マークが点灯します。
- 12 時間制の場合、午後は P マークが点灯します。

❹ Ⓐ ボタンを押すと、デュアルタイムモードに戻ります。

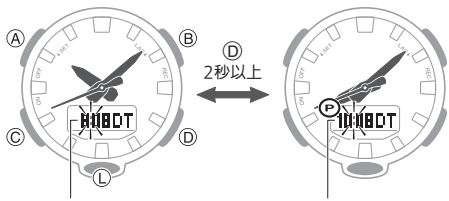
参考

- サマータイムとは、DST（Daylight Saving Time）とも言い、通常の時刻（スタンダードタイム）から 1 時間進める夏時間制度のことです。サマータイムの実施期間や実施地域は、国によって異なります。また、サマータイム制度を採用していない国や地域もあります。

現在時刻とデュアルタイムを入れ替える

● デュアルタイムモードで、Ⓓ ボタンを 2 秒以上押し続けます。

［HT ］が点滅した後、時刻モードの時刻とデュアルタイムが入れ替わります。

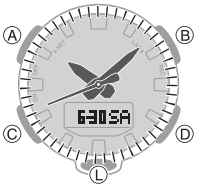


ライト

暗いところで時計の表示を見るときに、ライトを点灯させて画面を明るくすることができます。また、時計の傾きによってライトを点灯させるオートライト機能を設定できます。

ボタンを押して点灯させる

● Ⓛ ボタンを押すと、ライトが点灯します。



参考

- ライト点灯中にアラーム音が鳴ると、消灯します。
- ライト点灯時間は約 1.5 秒間と約 3 秒間のいずれかを選ぶことができます。

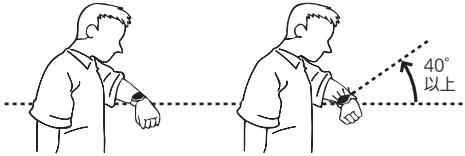
点灯時間を切り替える…P.35

◆ライト使用に関する注意事項

ライトを頻繁に使用すると電池寿命が短くなります。

自動的に点灯させる（オートライト）

オートライト機能がオンのとき、時計を 40° 以上傾けるとライトが点灯します。



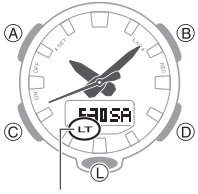
参考

- 以下の状態のとき、オートライト機能は作動しません。
  - アラーム音が鳴っているとき

◆オートライトのオン／オフ設定

●時刻モードで Ⓛ ボタンを約 3 秒間押し続けて、オートライト機能のオン／オフを切り替えます。

オートライトがオンのときは LT マークが点灯します。



オートライトオンマーク

◆オートライトに関する注意事項

- 以下の図のように、時計が水平状態から 15 度以上傾いていると、点灯しにくくなります。

- 静電気や磁気の影響でオートライトが作動しないことがあります。その場合、もう一度時計を水平状態にしてから傾けてください。
- 時計を傾けたとき、内部から「カラカラ」と音がする場合があります。これは、オートライトスイッチの作動音で、故障ではありません。
- オートライトが作動するのは、オートライトをオンにしてから約 6 時間です。それ以降は自動的にオートライトがオフになります。

点灯時間を切り替える

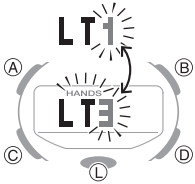
❶ 時刻モードで Ⓐ ボタンを「秒」が点滅するまで（約 2 秒間）押し続けます。

- 「秒」を設定できる状態になります。

❷ Ⓒ ボタンを 9 回押して、ライト点灯時間選択画面に切り替えます。

参照…P.14

[LT1] または [LT3] を表示します。



❸ Ⓓ ボタンを押して、[LT1]（1.5 秒間点灯）または [LT3]（3 秒間点灯）を選択します。

❹ Ⓐ ボタンを押して設定を終了します。

針の位置補正

強い磁気や衝撃を受けると、針の時刻とデジタル表示の時刻が合わないことがあります。そのようなときは、針の位置を補正します。

重要

- 針の時刻とデジタル表示の時刻が合っている場合、この操作は必要ありません。

針の位置を補正する

1 時刻モードで Ⓐ ボタンを［SEC 00］を表示するまで（約 5 秒間）押し続けます。

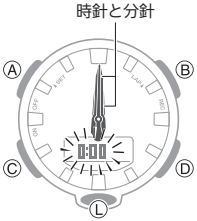
- 秒針を補正できる状態になります。
- Ⓐ ボタンを押している途中に［SET］、［H-S］と表示されますが、そのまま押し続けてください。
- ［SEC 00］の点滅表示は、秒針が基準位置（0 秒位置）に移動すること表します。

2 秒針が 0 秒位置を指していない場合は、Ⓓ または Ⓑ ボタンを押して 0 秒位置に合わせます。

❸ Ⓒ ボタンを押します。

- 時針と分針を補正できる状態になります。
- もう 1 回 Ⓒ ボタンを押すと※、秒針の補正状態に戻ります。
- 「0：00」の点滅表示は、時針と分針が基準位置（12 時位置）に移動すること表します。

※ 針の移動中は無効です。



❹ 時針と分針が 12 時位置を指していない場合は、Ⓓ または Ⓑ ボタンを押して 12 時位置に合わせます。

❺ Ⓐ ボタンを押すと、時刻モードに戻ります。

重要

- 針の位置補正が終了したら、時刻モードで、針の時刻とデジタル表示の時刻が合っているかご確認ください。もし合っていない場合は、再度針の位置を補正してください。

ボタン操作音のオン／オフ

ボタンを押したときに鳴る操作音のオン／オフ設定ができます。

❶ 時刻モードで Ⓐ ボタンを「秒」が点滅するまで（約 2 秒間）押し続けます。

- 「秒」を設定できる状態になります。

❷ Ⓒ ボタンを 8 回押して、操作音のオン／オフ設定画面に切り替えます。

参照…P.14

［BEEP ON］または［BEEP OFF］を表示します。

❸ Ⓓ ボタンを押して、［BEEP ON］（操作音オン）または［BEEP OFF］（操作音オフ）を選択します。

❹ Ⓐ ボタンを押して設定を終了します。

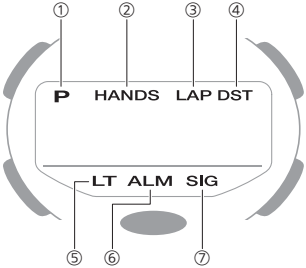
参考

- 操作音の設定がオフの場合でも、アラーム音、時報、タイマー音は鳴ります。

時刻設定

状況	原因と対処
現在時刻の表示が 1 時間ずれている	サマータイムの設定が正しくありません。 サマータイムの設定を確認してください。 サマータイムを設定する…P.15

主なマークとインジケーター



番号	名称	参照ページ
①	午後マーク	P.11
②	針退避マーク	P.13
③	LAP マーク	P.23
④	DST マーク	P.15
⑤	オートライトオンマーク	P.34
⑥	アラームマーク	P.29
⑦	時報マーク	P.29

製品仕様

精　　度：平均月差±15秒

基本機能：アナログ部
時・分（10秒運針）・秒
デジタル部
時・分・秒・月・日・曜日、午前/午後（P）/24時間制表示、フルオートカレンダー（2000～2099年）
サマータイム設定

ストップウオッチ／データーリコール機能：
計測単位　1/100秒（1時間以上は1秒）
計測範囲　23時間59分59秒（24時間計）
計測機能　通常計測、積算計測、ラップタイム計測、計測データを120本メモリー
時刻モードからのワンプッシュ計測スタート

タイマー機能：計測単位　1秒
計測範囲　100分
セット単位　1秒
セット範囲　1秒～100分
タイマー報音時間　10秒間

アラーム機能：時刻アラーム
アラーム数　5本
セット単位　時・分
アラーム報音時間　10秒間
時報　毎正時に電子音で報知

デュアルタイム機能：表示内容　時・分
セット単位　15分
サマータイム設定

その他：LEDライト、ライト点灯時間切り替え、オートライト、モニターアラーム、操作音オン／オフ設定、針退避機能

使用電池：CR2016　1個（電池別途販売）

電池寿命：約3年
（• ライト1回（1.5秒）/日
• アラーム1回（10秒）/日）

改良などのため、仕様は予告なく変更されることがあります。

■防水性

● 防水時計は時計の表面または裏ぶたに「WATER RESIST」または「WATER RESISTANT」と表示されているもので、次のように分類されます。

		日常生活用防水	日常生活用強化防水		
			5 気圧防水	10 気圧防水	20 気圧防水
表示	時計の表面または裏ぶたに表記	「BAR」表記無し	5BAR	10BAR	20BAR
使用例	洗顔、雨	○	○	○	○
	水仕事、水泳	×	○	○	○
	ウインドサーフィン	×	×	○	○
	スキンダイビング（素潜り）	×	×	○	○

- 専門的な潜水＝スキューバダイビング（空気ボンベ使用）でのご使用はお避けください。

● 時計の表面または裏ぶたに「WATER RESIST」または「WATER RESISTANT」と表示されていないものは防汗構造になっておりませんので、多量の汗を発する場合、もしくは湿気の多い場所でのご使用や直接水に触れるようなご使用はお避けください。

● 防水構造の機種でも、以下のご使用はお避けください。
防水性能の低下や、ガラスの内側が曇る原因になります。
- 「水中で」および「時計に水分がついた状態で」りゅうずやボタンを操作すること
- 入浴のときに使用すること
- 温水プールやサウナなどの高温多湿な環境で使用すること
- 時計を手につけたまま手洗い／洗顔／家事などをするときに、石鹸や洗剤を使うこと

● 海水に浸したときは真水で洗い、塩分や汚れを拭き取ってください。

● 防水性を保つために定期的（2 ～ 3 年を目安）なパッキン交換をおすすめします。

● 電池交換の際、防水検査を行いますので、必ず「修理サービス窓口」またはお買い上げの販売店にお申し付けください（特殊な工具を必要とします）。

● 防水時計の一部にデザイン上、皮革バンドを使用しているモデルがありますが、皮革バンド付の状態で、水仕事・水泳など直接水のかかるご使用はお避けください。

● 時計が急冷された場合など、ガラスの内側が曇ることがありますが、すぐに曇りが無くなるようであれば特に問題はありません。
夏季に高温の室外から室内に入りエアコンの吹き出し口付近で冷気にさらされたり、冬季に暖かい室内から出て屋外の冷気や雪に触れた場合など、外気と時計内部の温度差が大きくなることによって曇る時間が長くなることがあります。
なお、曇りが消えなかったり、時計内部に水が残っている場合は、ただちにご使用をやめて、修理を「修理サービス窓口」またはお買い上げの販売店にお申し付けください。

■バンド

- バンドをきつくしめると、汗をかきやすくなり、空気の通りが悪くなりますのでかぶれ易くなります。バンドは指一本が入る程度の余裕をもたせてご使用ください。
- バンドは、劣化やさびなどにより、切れたり外れたりすること、接合部のピンが飛び出したり抜け落ちたりすることがあります。これらは、時計の落下や紛失、けがの原因となります。バンドは常にお手入れをして清潔な状態でご使用ください。
- バンドに弾力性がなくなる、ひび割れ、変色、緩み、接合部のピンの飛び出しや抜け落ちなどの異常がある場合は、ご使用をやめてください。点検・修理（有償）や新しいバンドとの交換を、「修理サービス窓口」またはお買い上げの販売店にお申し付けください。

■温度

- 自動車のダッシュボードや暖房器具の近く等の高温になる場所に放置しないでください。また、寒い所に長く放置しないでください。遅れ、進みが生じたり、止まったり、故障の原因となります。
- ＋ 60℃以上の所に長時間放置すると液晶パネルに支障をきたすことがありますのでご注意ください。液晶表示は、0℃以下や＋ 40℃以上では、表示が見えにくくなることがあります。

■ショック

- 通常の使用状態でのショックや軽い運動（キャッチボール、テニスなど）には十分耐えますが、落としたり、強くぶつけたりすると、故障の原因になります。
  ただし、耐衝撃構造の時計の場合（G-SHOCK/BABY-G/G-ms）は腕につけたままでチェーンソーなどの強い振動や、激しいスポーツ（モトクロスなど）でのショックを受けても時計には影響ありません。

■磁気

- アナログ時計やコンビネーション（アナログとデジタル）時計は、針を動かすために磁石の性質を利用したモーターを駆動させる方式を採用していますが、このモーターは強い磁気（オーディオ機器のスピーカー、磁気ネックレス、携帯電話など）を発生する器具に近づけるとモーターの回転に影響を受け、針の「遅れ・進み・止まり・誤った時刻表示」などの原因となります。
- 極度に強い磁気（医療機器など）は誤動作や電子部品を破損する恐れがありますのでお避けください。

■静電気

- 静電気により誤った時刻を表示したりします。また、極度に強い静電気は、電子部品を破損する恐れがあります。
- 静電気により、一時的に液晶の点灯していない部分ににじみ現象が発生することがあります。

■薬品類

● シンナー、ガソリン、各種溶剤、油脂またはそれらを含有しているクリーナー、接着剤、塗料、薬剤、化粧品類等が付着すると、樹脂ケース、樹脂バンド、皮革などに変色や破損を生ずることがありますのでご注意ください。

■保管

● 長期間ご利用にならないときは汚れ、汗、水分などを拭き取り、高温、多湿の場所を避けて保管してください。

■樹脂部品について

● 長時間、他の製品と密着させたり、濡れたまま他の製品と一緒にしておくと、他の製品に色が移行したり、他の製品の色が樹脂部品に移行したりすることがありますので、濡れているときはすぐに水分を拭き取り、他の製品に密着させたままにしないでください。

● 長時間、直射日光（紫外線）に当てたり、汚れが付着したまま放置すると色あせする場合があります。

● 塗装部品は、使用状況（過度の外力、連続したこすれ、衝撃等）により磨耗し色落ちしたりすることがあります。

● バンドにプリントがしてある場合は、プリント部分を強くこすると他の部分に色がつくことがあります。

● 蛍光商品は、長時間濡れたままにしておくと色が落ちる恐れがありますので、濡れているときはすぐに水分を拭き取って、乾かしてください。

● スケルトン（透明）仕様の部品は、汗や汚れ等の吸収や高温多湿への放置により変色を起こすことがあります。

● ご使用状態や保管環境により異なりますが、日々のご使用や長期保管によって劣化し、切れたり、折れたりすることがあります。

■皮革バンドについて

● 長時間、他の製品と密着させたり、濡れたまま他の製品と一緒にしておくと、他の製品に色が移行したり、他の製品の色が皮革バンドに移行したりすることがありますので、濡れているときはすぐに柔らかい布などで軽く拭いて、他の製品に密着させたままにしないでください。

● 長時間、直射日光（紫外線）に当てたり、汚れが付着したまま長時間放置すると色あせする場合があります。
ご注意：皮革バンドは、摩擦・汚れにより色を移したり、色落ちすることがあります。

■金属部品について

● 金属は、ステンレスやメッキ品でも汚れたままご使用になりますと、さびが発生することがあります。汗をかいたときや水に濡らしたときは、柔らかい吸湿性の良い布などでよく拭き取った後に、通気性の良い場所に保管し、よく乾燥させてください。

● ときどき、柔らかい歯ブラシに中性洗剤を水で薄めた液や石鹸水をつけて、こすり洗いをしてください。その後、洗剤成分を水でよく洗い流し、柔らかい吸湿性の良い布などで水分を拭き取ってください。なお、洗うときは「調理用ラップを巻く」などして、時計本体に洗剤や石鹸水がかからないようにしてください。

■抗菌防臭バンドについて

● 抗菌防臭バンドは汗などによる細菌の増殖を抑え、においの発生を防ぎ、常に清潔で快適な装着感が得られます。抗菌・防臭の効果を上げるために、バンドの汚れ、汗、水分等は吸湿性の良い柔らかい布で拭き取り、常に清潔にしてご使用ください。抗菌防臭バンドは微生物や細菌の増殖を抑えるためのもので、アレルギー等による皮膚のかぶれ等を抑えるものではありません。

■液晶表示について

● 液晶表示は、見る方向によって表示が見えにくくなることがあります。

■データ保護について

● 電池切れや電池交換および故障修理の場合、データ内容はすべて消えてしまいますのでご了承ください。また、故障・修理・電池交換等に起因するデータの消失による損害および逸失利益等につきましては、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。なお、大切なデータはノートなどに控えをとっておいてください。

万一、本機使用や故障により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

お手入れについて

■お手入れのしかた

時計も衣類同様、直接身につけるものです。長くお使いいただくために、汚れ・汗・水分などは柔らかい布などでこまめに拭き取り、常に清潔な状態でご使用ください。

● 海水や泥がついた場合は、真水でよく洗い流してください。

● 金属バンドおよび樹脂バンドの金属部品は、柔らかい歯ブラシに中性洗剤を水で薄めた液や石鹸水をつけて、こすり洗いをしてください。その後、洗剤成分を水でよく洗い流し、柔らかい吸湿性の良い布などで水分を拭き取ってください。なお、洗うときは「調理用ラップを巻く」などして、時計本体に洗剤や石鹸水がかからないようにしてください。

● 樹脂バンドは、水で洗い、柔らかい布などで水分を拭き取ってください。また、樹脂バンドの表面にシミのような模様が発生することがありますが、人体および衣類への影響はありません。布などで拭き取ってください。

● 皮革バンドは、水や汗がついた場合には、柔らかい布などで軽く拭いてください。

● りゅうずやボタンや回転ベゼルは、長期間操作しないと動きが悪くなる場合があります。ときどき、りゅうずや回転ベゼルを回したり、ボタンを押したりしてください。

■お手入れを怠ると

〈さび〉

● 時計で使用している金属はさびにくい性質ですが、汚れによりさびが発生します。

- 汚れにより酸素が絶たれると、表面の酸化皮膜が維持できなくなり、さびが発生します。

● さびが発生すると、金属部分に鋭利な箇所ができたり、接合部のピンが飛び出したり抜け落ちたりすることがあります。異常に気がついた場合は、ご使用をやめて、修理（有償）を「修理サービス窓口」またはお買い上げの販売店にお申し付けください。

● 表面はきれいでも、すきまに付着した汚れやさびがしみ出して、衣類の袖を汚したり、皮膚がかぶれたり、時計の性能が劣化することがあります。

〈劣化〉

● 樹脂バンドや樹脂ベゼルは、汗などの水分で濡れたままにしておいたり、湿気の多い場所に放置すると経年劣化し、切れたり、折れたりすることがあります。

〈かぶれ〉

● 皮膚の弱い方や体調により、かぶれたりすることがあります。特に、皮革バンドや樹脂バンドをお使いの方は、こまめにお手入れをしてください。万一、かぶれた場合には、そのバンドの着用を中止し、皮膚科の専門医にご相談ください。

電池交換について

- 電池交換は必ず「修理サービス窓口」またはお買い上げの販売店にお申し付けください。
- 電池は必ず当社指定の専用電池と交換してください。指定以外の電池を使用しますと故障の原因となる場合があります。
- 電池交換の際、防水検査を行います。
- 樹脂（外装）部品は日々のご使用により劣化し、切れたり折れたりする場合があります。電池交換ご依頼品の樹脂部分にひびなどの異常がある場合、破損の恐れがありますので作業を行わずにご返却する旨のご案内をさせていただくことがございます。あらかじめご了承ください。

■最初の電池

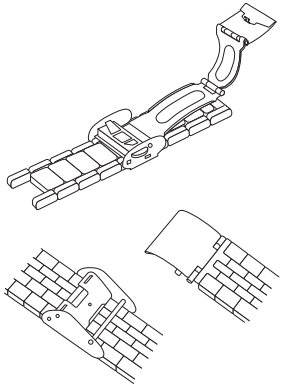
- お買い上げの時計に組み込まれている電池（モニター用電池）は、工場出荷時点に時計の機能や性能をチェックするために組み込まれたものです。
- お客様がお買い上げになるまでの期間に電池は消耗しますので、モニター用電池は取扱説明書などに記載されている電池寿命に満たない場合があります。また、電池交換は保証期間内でも有料となります。

■電池の消耗

- 電池が消耗しますと「時刻の狂いが目立ったり」「表示が見にくくなったり」「消えたり」します。
- 消耗した電池を使っていると故障の原因になりますので、お早めに交換してください。

金属バンドの駒詰めについて

金属バンド（フリータイプの中留構造バンド※を除く）の駒詰めには専用の工具が必要となります。
お取り扱いによる、部品の変形や破損、またはけが等を予防するためにも、お買い上げの販売店にご相談ください。
なお、「持込修理サービス受付窓口」においても保証期間内は無償、保証期間経過後は有償にて承っております。
詳しくは、「持込修理サービス受付窓口」または「修理に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。

※ 中留をスライドさせて長さ調整するフリータイプのバンドでは、駒の取り外しはできません。

（例）